



公共交通ワークショップを実施しました

みんなで描く、守谷の交通



守谷市では、高齢化の進展や運転手不足といった現状を踏まえ、将来にわたり持続可能で利用しやすい公共交通のあり方について検討を進めています。

市民の皆さまの公共交通に対する意識やご意見を今後の施策に反映していくため、2026年5月・6月、全2回の市民ワークショップを開催しました。世代や居住地区の異なる多様な参加者の皆さまにお集まりいただき、将来の「守谷の交通」について意見を交換しました。



実施場所：守谷市役所大会議室



第1回

テーマ「守谷市の公共交通の現状と課題」

車社会といわれることの多い守谷市において、日常の移動手段として公共交通を利用しにくい理由を共有し、背景にある課題や解決の方向性について話し合いました。

2026年5月23日（土）14時～16時 計18名ご参加 4グループ編成＜世代別＞

グループワークでいただいた主なご意見

現状 | 車中心の暮らしと、公共交通を使いにくい実態

- ・ 守谷市では、自家用車での移動が当たり前になっており、公共交通が日常の選択肢に入りにくい。
- ・ バスは本数が少なく、利用したい時間帯に使いにくい。目的地まで遠回りになる、時刻通りに来ないなどの不安や負担もある。
- ・ 買い物の荷物が多いときや、家族の送迎が必要なときは、車の利便性が高い。
- ・ 一方で、免許未取得・返納者、子ども、高齢者などにとっては、移動手段が限られる場面が多い。
- ・ モコバスやデマンド乗合交通について、存在や利用方法、お得な制度などが十分に知られていない。

課題 | 利用者減・運転手不足・財政負担の悪循環

- ・ 利用者が少ないため収益が上がらず、本数や利便性を高めにくい。
- ・ 利便性が低いことで、さらに利用者が増えにくいという悪循環がある。
- ・ 運転手不足により、バスの増便や路線拡充には限界があることを認識。
- ・ 大型車両で少人数を運ぶ非効率さがあり、車両の小型化や運行方法の見直しが必要ではないか。
- ・ 公共交通の維持には多くの税金が使われており、料金設定や費用対効果についても検討が必要。
- ・ デマンド乗合交通への期待はある一方、予約が取りにくいいため、十分に機能していない。



改善のアイデア | 既存交通の見直しと、新たな移動手段の検討

- ・ モコバスやデマンド乗合交通の利用方法や料金、回数券などの情報を分かりやすく伝える。
- ・ 利用実態に合わせてルートやダイヤを見直し、小型車両の活用など、より効率的な運行方法を検討。
- ・ 夜間の移動、妊婦・乳幼児連れの移動、免許を返納した高齢者の通院・買い物、子どもの通学・習い事など、具体的な利用場面に応じた交通手段を確保する。
- ・ スクールバスや企業バスなど、既存の車両・地域資源を活用する。
- ・ ライドシェアや自動運転など、新たな移動手段の導入も検討し、運転手不足解消や市の負担軽減へ。
- ・ 公共交通は行政だけが支えるものではなく、市民も積極的に知る・利用する・周囲に広めることで、地域全体で維持していく意識が必要。



第1回で共有された現状や課題を踏まえ、ライドシェア、自動運転、デマンド乗合交通の拡充、互助輸送など、新たな移動手段への期待や、導入に向けた課題、解決策などについて話し合いました。

2026年6月20日（土）14時～16時 計14名ご参加 4グループ編成＜世代混合＞



グループワークでいただいた主なご意見

新たな移動手段について | 期待と不安が混在

- ・ライドシェアや自動運転、デマンド乗合交通の拡充により、既存のバスだけでは対応しきれない移動ニーズを補えるのではないかな。
- ・自動運転への期待は大きいですが、実用化には時間がかかり、すぐに使えるものではないと理解。
- ・ライドシェアは、地域の助け合いや担い手確保につながる。ただ、ドライバーの身元・運転技術、安全面、サービス面への不安がある。
- ・デマンド乗合交通は、対象者や運行範囲を拡大してほしい。現状は、予約の取りにくさや日曜運休、行き先・時間の制限といったハードルもある。
- ・飲食店、コンビニ、企業、既存の送迎バスなど、地域にある資源を活用できるのではないかな。
- ・将来的には、自動運転技術を活用した新たな交通システムにも期待。

課題 | 安全性・担い手・コストの壁

- ・全体として、資金面とドライバー確保が大きな課題。
- ・ライドシェアは、事故時の責任、保険、ドライバーの認定・講習、運行管理など、安全性を担保する仕組みが不可欠。
- ・自動運転は、安全性、速度、運行ルートなどを踏まえ、費用対効果の検討が求められる。
- ・デマンド乗合交通は、対象者・利用条件・予約方法・運行範囲・乗降場所などが課題。
- ・タクシー事業者や運転代行業者など、既存事業者との競争を避け、共存できる制度設計が必要。
- ・自家用車が便利で駐車場も利用しやすい環境の中で、公共交通を選ぶ動機をどう生み出すかも課題となっている。



改善のアイデア | 地域資源を組み合わせる

- ・自動運転は、交通量の少ないエリアやルート・目的地を限定した実証から始め、段階的に検討しては。
- ・ライドシェアは、GPS搭載、運行記録の管理、ドライバー講習・認定制度など、安心して利用できる仕組みをつくる。
- ・デマンド乗合交通は、乗降場所や目的地の柔軟性を高め、アプリ等による予約・決済の仕組みも検討を。持続可能性を踏まえると、経費に見合う料金の見直しも必要。
- ・金曜夜や歓送迎会シーズンなど、需要が集中する時間帯に飲食店と連携した送迎の仕組みも有効では。
- ・行政がすべてを担うのではなく、飲食店、コンビニ、企業、商工会、既存送迎バスなどを組み合わせる。
- ・セミリタイア世代など、地域内の人材を担い手として活用。
- ・公共交通（公助）とマイカー（自助）の二択ではなく、ライドシェアや互助輸送など「共助」的な仕組みを取り入れる。



付箋と模造紙を使ったグループワーク後には、グループごとの発表で、意見を全体に共有しました

今回のワークショップにご参加いただいた皆さまに、心より感謝申し上げます。いただいたご意見は、今後の公共交通施策の検討に活かし、持続可能でより利用しやすい「守谷の交通」づくりにつなげていきます。

